

# CIS データ ソース機能の修正の Q/A

## 目次

### 概要

[どこでデータ ソース機能をカスタマイズする必要がありますか。](#)

[なぜインストールでこれをする 2 つの場所ありますか。](#)

[変更を行なうためにどの方式を選択する必要がありますか。](#)

[なぜレガシーシステムによって迷惑を掛ける必要がありますか。](#)

## 概要

この資料は Cisco インフォメーション・サーバー ( CIS ) データ ソース機能の修正を記述したものです。

## どこでデータ ソース機能をカスタマイズする必要がありますか。

カスタム変更を行うことができるサーバイnstall に 2 つの場所があります:

```
<install dir>/apps/dlm/<adapter type>/conf/<adapter name>.capabilities
```

または

```
<install dir>/conf/adapters/system/<adapter name>/<adapter name>_values.xml
```

## インストールでこれをする 2 つの場所ある理由

```
<install dir>/apps/dlm/<adapter type>/conf/<adapter name>.capabilities
```

ユーザ修正が行うことができる場所にレガシーパスがあります。

これは未定将来停止されるように意図されています。 それは今まだフル機能装備です。

```
<install dir>/conf/adapters/system/<adapter name>/<adapter name>_values.xml
```

第 2 生成によって好まれる位置はあります。 設定ヒントは XML 形式でここに保存されます。

## 変更を行なうためにどの方式を選択する必要がありますか。

行う 2nd-gen 位置の変更をアップグレード/移行を/存続させ、修正するまた .car ファイル輸出高に含まれています。

これは変更を行なう優先する位置です。

また新しいデータソースを作成した場合、スタジオ UI で見る各アダプタのためのパスがあることを、注意して下さい。

修正したいと思う正確なアダプタを目標とすることができます。

新しいインストールに移行するとき行うレガシーシステムの変更を主要なアップグレードの間に失われます。

それらの変更は `.car` ファイル エクスポートに遂行されません。

インストールの修正はまた `.capabilities` ファイルへの変更をこれらの `.capabilities` ファイルのバージョン管理が放棄された原因にします。

さらに、さまざまな versioned `.capabilities` ファイルは複雑である場合もあり、ユーザエラーに貢献する可能性があります。

## レガシーシステムによって迷惑を掛ける必要がある理由

および実験して、`.capabilities` ファイルの 1 行毎テキストを編集することは容易であるトラブルシューティング中によりもむしろ値 `.xml` ファイルの新しい XML 要素を編集するか、または構成して下さい。 開発しあなた自身たいと思う新しい機能を研究し、テストすることを試みる場合 `.capabilities` ファイルに目を通すこともまた容易です。

ソリューションで着いたら、そして耐久性のための `values.xml` ファイルに付加のために必要とされる XML 要素を構成して下さい。